国庫補助事業 障害者スポーツ振興事業

地域におけるパラスポーツの振興事業

日本パラスポーツ協会では、障がい者が身近な地域で自主的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に国庫補助事業として「地域におけるパラスポーツの振興事業」を実施しています。

4つの関連組織に所属する団体が委託対象となっており、本事業を通じて、各地域での「スポーツ活動の場づくり」、「人材の育成」、「体制づくり」、「選手発掘・育成」等に取り組んでいただいております。

令和5年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」の各団体の取り組みの視点と相互の連携・協働による事業スキーム

	障がい者スポーツ協会	障がい者スポーツ指導者協議会	障がい者スポーツ競技団体	障がい者スポーツセンター
活動の場づくり	地域格差の解消 活動の場や機会を増やす ●未普及地域の活動拠点の創出 ●関係団体と連携した拠点設置	活動の場や機会を増やす 身近な地域の場づくり ●スポーツ教室の運営、指導 ●指導者の支部拠点の設置	活動の場や機会を増やす 専門的な指導者の派遣 ●スポーツ教室の運営、指導 ●特別支援学校等と連携したスポーツ活動	活動の場や機会を増やす 専門的な指導者の派遣 ●障がい者スポーツセンターでのスポーツ教室の運営指導 ●サテライト(地域拠点)機能の設置
人材の育成	指導の担い手を増やす 体制の構築と人材の活用 ●スポーツ指導者の資質向上 ●スポーツ指導者の人材活用	指導の担い手を増やす 人材の活用とマッチング 若い人材の活動活性化 ●指導人材の資質向上 ●指導者の活動機会の活性化 ●資格取得認定校との連携	指導ノウハウの継承 専門性の高い人材の育成と活用 ●地域で活動する競技別指導者の養成、育成 ●審判員や普及を担う人材の育成	
体制づくり	継続した活動の仕組みづくり 地域スポーツの体制づくり ●新たなクラブ、サークルの設立 ●県市(ブロック)における競技団体の設立 ●既存の上記団体の活動支援			関係団体との連携促進 ●公共スポーツ施設の利用促進に向けた事業 ●特別支援学校や大学との連携事業
選手発掘・育成	連携・協働	連携・協働	スポーツに取り組む人材の発掘 スポーツ活動の披露の場の提供 ●学校や医療現場との連携 ●パラスポーツに取り組む選手育成 ●ブロック、県市の大会等の開催	連携・協働

事業の流れ

3月～4月	4月～6月	7月～1月	1月末	2月
事業の申請 □ 事業計画書 □ 予算書	選定審査・委託契約 □ 申請事業へのフィードバック □ 委託費の決定	事業の実施	事業の完了・報告 □ 事業報告書 □ 決算書	相談会・報告会 □ 次年度事業の相談会 □ 当該年事業の報告会

発行 公益財団法人 日本パラスポーツ協会
編集 公益財団法人 日本パラスポーツ協会 技術委員会 推進部会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町2丁目13−6
TEL:03-5695-5420　FAX:03-5641-1213

過去の事業報告書はこちら

人と人、地域をつなげ道を拓く

地域における パラスポーツの振興

～スポーツ活動の場をつくり・育てるために～

Contents

パラスポーツ振興に向けて …… 2
事例集 …… 3
新しい取り組み …… 6
パラスポーツの担い手 …… 7
地域におけるパラスポーツの振興事業 …… 8

パラスポーツ振興に向けて

日本パラスポーツ協会では、パラスポーツの裾野を拡げるため、次のミッションを掲げ、地域振興を図っています。

平成23(2011)年に開始した「地域における障がい者のスポーツ(現:パラスポーツ)の振興事業」(以下、地域振興事業)は、令和4(2022)年から委託対象団体が拡大され、たくさんの好事例が蓄積されてきました。本リーフレットでは、パラスポーツ振興を図るうえでのさまざまなアプローチ(切り口)を知ってもらうため、全国の事例の一部を抜粋し地域振興の「モデル」として掲載しています。

また、組織連携における拡がりを「担い手の皆さんの声」を通して紹介しています。

地域振興事業での活動が参考になり、障がいのある人のスポーツの生活化に寄与すること、同事業がさらにみなさまへ活用されることを願っています。

ミッション(果たすべき使命)

- **障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、ライフステージやニーズに応じて、身近な地域で日常的にスポーツを楽しめるような環境を整え、パラスポーツの普及拡大を実現する。**
- **全国においてパラスポーツの振興の取り組みが継続的に推進できるよう、行政(スポーツと福祉)、学校、スポーツ団体、医療機関、及び企業・関係諸団体等との強い連携・協働体制づくりを進める。**

地域でのスポーツ活動拡充のイメージ

地域のパラスポーツ振興は、まず地域の実情を把握し、必要な活動・つくりたい活動のイメージをもった計画的なアプローチが求められます。

例えば、未普及の地域で活動の場をつくる初期段階では、体験会やイベントを通して地域の実態を把握し(ステップ1)、その後、地域とともに定期的な活動(スポーツ教室など)を通して継続を図る活動を模索(ステップ2)。さらに、スポーツの日常化に向けた地域で自立したクラブ・サークル化(ステップ3)が一つの道筋といえるでしょう。3年後、5年後の地域活動のイメージをもって取り組むことも振興のポイントとなります。

スポーツ活動の場をつくり・育てる

1 知る・探る・場をつくる

地域に出向き、地域の実態を知り、活動の場をつくる

- 必要な活動、生み出したい活動は何か
- 将来の活動をイメージ
- 活動に必要な地域の団体・人材を引き込む

体験会・イベント

2 地域でつながる

活動が継続できる形をつくる

- 地域が主体(やりたいことを生む)
- つながる(連携)
- 育てる(指導者・参加者・支援者)
- 活動のニーズを生み出す

スポーツ教室

3 定着する

地域での活動定着

- 新たな活動へつながる

クラブ・サークル 地域活動への参加

事例集

地域振興事業から、将来の地域での活動をイメージして取り組まれた6つの事例を取り上げています。目的達成と課題解決に向け、連携・プランニングし取り組んだ内容や成果が、スポーツ振興を行う全国の地域・団体の取り組み、同事業活用のヒントとなるよう紹介します。

事例1 地域格差の解消

～県内全域でパラスポーツの振興を～

【鹿児島県パラスポーツ協会】

企画

地域格差解消のため、県内全域で、地域のパラスポーツ指導員や県ボッチャ協会を始め競技団体、地域のスポーツ推進委員との組織連携から、継続した活動ができる場をつくる。

150万円 委託決定

主な内容

『鹿児島県障害者スポーツ普及プロジェクト』
- 障がい者スポーツ教室の開催
  (対象:特別支援学級児童等)
- 障がい者スポーツ指導講習会の開催
  (対象:スポーツ推進委員中心)

◆県内を6ブロックに分け、地域ごとに会場を選定

成果

- モデル市を策定したことで、そのモデルケースを他ブロックへ移行するという流れができた。
- 活動を行ってきたブロックは主体を地域に移し、県協会はサポートへ移行。地域の活動拠点と人材を広げている。

実施担当者のコメント

鹿児島県
パラスポーツ協会
丸野 奈央さん

鹿児島県内全域にパラスポーツの拠点をつくりたいという想いが少しずつ形になってきました。地域で活動している仲間が障がいのあるなしに関わらず、スポーツを楽しめる環境づくりに尽力してくれています。

さらにこの輪が拡がるよう頑張っていきたいと思います。

事例2 地域で活躍できる指導者を

～ふうせんバレー指導者の育成～

【兵庫県障害者スポーツ協会】

企画

以前より、県単位の審判員養成を中心に行ってきたが、今後地域単位で活動できる指導者を育成するため、より身近で活動できるような体制づくりと企画力、地域や団体との調整力、運営力などを備えた人材を育成する。

150万円※ 委託決定

主な内容

『ふうせんバレー指導者育成講習会』
- 競技の歴史と基本ルール
- プレーヤーとしてルールの理解
- 審判の心構えと見逃しやすいジャッジ
- ユニバーサルスポーツとして普及活動の進め方

◆県内パラスポーツ指導者が対象

成果

- 連携団体である兵庫県ふうせんバレーボール連盟が企画・実施、資料づくり、会場確保、運営を行い、県協会から実施主体を引き継ぐことができた。
- 総合型地域スポーツクラブの協力もあり、パラスポーツの場の拡大につながった。

実施担当者のコメント

公益財団法人
兵庫県障害者スポーツ協会
増田 和茂 さん

本事業助成は、大きな活動資金であり地域活性化につながると再認識しました。今後パラスポーツ指導者協議会、競技団体との円滑で有機的な関係を構築し、協働していきたいと思います。

また、指導者のマネジメント系研修を重要課題とし、従来の研修目的、内容を再考したいと思います。

※委託費の一部が本事業に活用されています。

事例3 民間力を活かしたパラスポーツ振興
～共に創るパラスポーツ交流事業～
【岩手県障がい者スポーツ協会】

企画
持続的な事業展開ができていないという課題を背景に、青年会議所が持つ高い運営スキルと社会貢献に対する意識をパラスポーツの振興事業と組み合わせることにより、共生社会推進の大きなパワーを生み出す。

主な内容
200万円※ 委託決定

『パラスポーツを通した共生社会づくり推進の取り組み』
- 地域共生社会を考えるパネルディスカッション
- パラスポーツ体験会（ボッチャ等）

◆全体の企画・運営・周知などを北上青年会議所が担い、県協会は、体験ブースの運営やスタッフ派遣を担当

成果
●実施に伴う企画・運営等の部分で青年会議所の持つ民間力を生かし、障がい当事者や関係者が当日の運営に専念できる新たな連携体制を構築できた。
●連携団体の長所・短所が見える化され、今後の方向性や役割を共有できた。

実施担当者のコメント

一般社団法人
岩手県障がい者
スポーツ協会
三浦 拓朗さん

地域や当事者の主体性を引き出すことは簡単ではありませんが、青年会議所との連携を通して、共生社会に対して高い関心を持つことができました。真剣に取り組み、共に創ることの意義を実感できる機会となりました。
今後もこの活動を継続して全県に波及できるよう努めたいと思います。

事例4 地域の自立を見据えた場づくり
～地域組織（県協会）の基盤強化～
【日本ボッチャ協会】

企画
地域協会の自立や加盟団体組織化に向け、所属会員である、「選手・審判員・クラス分け委員・コーチ等」を対象に、カテゴリー別のスキルアップ講習を同時開催する。

主な内容
200万円 委託決定

『Bチャレンジ（東日本・西日本）事業』
- 選手のクラス別トレーニングマッチ
- B・C級審判員フォローアップ講習
- クラス分け員フォローアップ講習
- A級コーチ講習
- サポーター講習

◆上記トレーニングマッチ・講習を同一期間、同一会場で実施

成果
●参加者同士の交流により、クラブづくりなど、地域活動拡大につながっている。
●複数カテゴリーの講習を同時開催することで、質の高い実技・実践を交えることが可能となり、各カテゴリーの枠を越えたコミュニケーションが活発となり、地域間連携のきっかけとなっている。

実施担当者のコメント

一般社団法人
日本ボッチャ協会
村上 光輝さん

日本ボッチャ協会の会員が増える中で、会員の活動の機会を増やしてほしいという要望があります。本事業が、地域やそれぞれの立場の方が連携でき、スキルアップの機会になればと思います。今後は、同日に地域協会の連絡会議等も実施し、さらに地域組織の基盤強化を図っていきたいと思います。

事例5 知的障がい者(ID)への柔道の普及
～柔道ができるという選択肢の提供～
【全日本柔道連盟】

企画
知的障がい者を受け入れたいが不安を抱えている指導者が多いことを踏まえ、知的障がい者柔道の紹介をするとともに、体験会を行うことで、ID柔道の理解を深め、新規選手の獲得につなげる。

主な内容
150万円※ 委託決定

『ID柔道普及事業』
- ID柔道安全指導者研究会の開催
- ID柔道紹介事業の開催
- ID柔道体験会の開催

◆知的障がい者関連施設やグループを対象にID選手とその保護者等を交え、知的障がい者でも柔道を安全に行えること、またその楽しさを伝える

成果
●ID柔道選手の技の披露や簡単な柔道体験を行ったことで、保護者等含めて、ID柔道を知らない参加者にアピールをする良い機会となった。
●「柔道をするという選択肢を考えてみたい」との意見もいただき、普及の第一歩を踏み出すことができた。

実施担当者のコメント

公益財団法人
全日本柔道連盟
蒲原 光一さん

当連盟でID柔道の活動を始めて5年が経ち、さまざまな課題が見えてくる中で、本事業は、ID柔道を知っていただく大変貴重な機会になりました。今後も知的障がい者への理解も深め、柔道を共にできる楽しさを伝える機会を増やしていきたいです。

事例6 地域活性化プロジェクト
～未来を担う子どもたちのために～
【日本車いすバスケットボール連盟】

企画
チーム数、競技人口の減少を踏まえ、未来を担う子どもたちが暮らしている地域で、より身近に、より気軽にパラスポーツに親しめるように各地域のクラブチームと連携し、その環境づくりを目指す。

主な内容
200万円※ 委託決定

『キッズ・ジュニアチーム創設プロジェクト』
- 全国のクラブチーム等を対象とした事業説明会の開催
- 各クラブ等が主体となり、交流練習会を開催

◆既存の登録クラブチームだけでなく、すでに地域で活動されている任意団体にも広く周知を実施

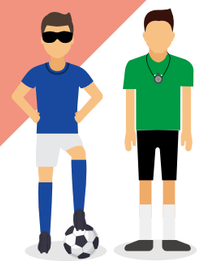
成果
●本プロジェクトが各クラブの課題とマッチングしたことで、目標（8チーム）を上回る16チームのエントリーがあり、各地で交流練習会等の取り組みを開催できた。
●各地での事業展開が、全国の未来を担う子どもたちの活動拠点の創出につながった。

実施担当者のコメント

一般社団法人
日本車いすバスケットボール連盟
中長期計画推進委員会
橘 香織さん

本プロジェクトは、当連盟「中長期計画推進委員会」の中の「子ども&地域活性化ワーキング」が推進しています。
このプロジェクトがきっかけとなり、全国のクラブチームが更に盛り上がり、子どもたちの活動が広がることを目指しています。

※委託費の一部が本事業に活用されています。



新しい取り組み 紹介します

令和4年度より、各都道府県の障がい者スポーツ協会に加え、中央競技団体、障がい者スポーツセンター、障がい者スポーツ指導者協議会も「地域振興事業」を受託できるようになりました。

障がい者スポーツセンター、障がい者スポーツ指導者協議会、それぞれの視点で地元の資源を活かした令和5年度の新たな取り組みを紹介します。

事例1 プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業
【新潟県障害者交流センター】

きっかけ

地元(新潟県)のプロサッカーチームと連携して，パラスポーツを地域で盛り上げたい!!

事業内容

「アルビレックス新潟レディース」(プロサッカーチーム)の選手を講師とし、地域のクラブや特別支援学校でのサッカー教室を実施。アルビレックスのサッカー場でパラサッカーフェスタを開催。各事業前には、選手・スタッフと勉強会を行い、地元プロチームと協働でのパラサッカー普及に向けた体制づくりを行う。

期待される効果

プロサッカーチームと連携をすることで、高い技術指導の提供、プロ選手との交流をとおしたモチベーションのアップにつながった。アピール力の高い地元プロチームが障がいの理解・指導経験を広げることで、地域へのさらなる普及へ足がかりが作れた。さらに、パラスポーツがプロ選手のセカンドキャリアにもつながっている。

工夫のポイント

地域のスポーツを牽引するプロチームとの連携により、パラスポーツの普及が加速！ 普段プロ選手からジュニアのチームまで活動するサッカー場を使用したことで、多様なサッカー愛好者が活動する環境で実施ができた。

事例2 パラスポーツ指導員の活動活性化と地域との連携
【宮城県障害者スポーツ指導者協議会】

きっかけ

パラスポーツ指導員が中心となりスポーツの楽しさを伝えたい!!

事業内容

スポーツをすることで得られる、楽しさ、仲間づくり、達成感などを伝えるため、宮城県内の教育機関や施設、保育園などでボッチャ教室を実施。また、地域のスポーツ推進委員とも連携を図り、パラスポーツの理解・促進に努めた。

期待される効果

パラスポーツ指導員が中心となり教室や体験会の企画や実施をすることで、指導員同士のつながりや発信力・実践力を身につけた。地域のスポーツ推進委員と連携することにより相互理解につながった。

工夫のポイント

パラスポーツ協会やスポーツセンターに頼らずパラスポーツ指導員が自ら企画。初級指導員から上級指導員まで皆で力を合わせて事業を実施する楽しさや難しさも!?得ることができた。

パラスポーツの担い手

地域振興を展開する上では、さまざまな組織の強みを活かした「連携」が相乗効果を生み出します。地域で活動する組織が一体となって取り組むことで、地域に活動が根付く可能性が広がります。ここでは、地域でパラスポーツ活動を進められている方々を紹介します。

鹿児島県姶良市
スポーツ推進委員
花田 さつきさん

スポーツ推進委員の活動の中でパラスポーツに出逢いました。障がいについてもっと学びたいと思い、初級パラスポーツ指導員資格を取得しました。他のパラスポーツやそれに関わる素敵な方々に出逢うきっかけを得られました。さらに仲間が増え、活動範囲も拡がりました。障がいのある方々と一緒に身近でスポーツができる環境づくりに仲間とともに取り組んでいることがとても充実しています。

これからもスポーツの魅力を伝えられるように活動していきたいです。

神戸総合型地域スポーツクラブ
灘せせらぎクラブ・
ユニバーサルスポーツの会
乾 由美さん

障がいのある娘と一緒に「ふうせんバレーボール」競技団体主催の練習会に参加したことをきっかけに、競技をはじめました。コロナ禍で練習ができなくなった中、令和4年度に、競技団体メンバーとパラスポーツ指導者の方々の協力で、総合型クラブ内に、「卓球バレー」や「ボッチャ」を加えた「ユニバーサルスポーツの会」を結成し、小学校体育館を定期利用できるようになりました。最近では、新規の地域住民やサポートメンバーも少しずつ増え、障がいの有無関係なく一緒にプレーすることを楽しんでいます。

公益社団法人北上青年会議所
パラスポーツ体験事業2022
実行委員長
田鎖 開さん

令和4年度に、岩手県障がい者スポーツ協会と連携し、地域共生社会を知り・学び・考える事業やパラスポーツ体験会などを開催しました。青年会議所関係者や市民のみなさまが、パラスポーツを通した交流から、多様性の現状を認め合う機会をつくることができました。

この活動を機に、他団体でもパラスポーツを活用した計画もあり、本活動が伝播していると感じています。

新潟WBCジュニア
代表
肥田野 篤史さん

新潟WBCジュニアは、「リソース(ヒト・モノ・カネ・コネクション)」が潤沢にない中でも、人脈を駆使してサポーターを集め、他地域と積極的に連携しながらこれまで活動してきました。その活動は必ずしも安易な道ではありませんでしたが、私たちのモチベーションの源泉には「子どもたちが自分の将来を自由に選択できる土台作り」を目指す強い“思い”があります。そういった地域を大切に思い活動している当クラブと、それをアップデートできる中央競技団体の連携が継続されることで未来の発展と地域への波及効果を実感しています。